

三〇八三番

恋こふること 増まされる今は 玉たまの緒をの 絶たえて乱
れて 死しぬべく思おもほゆ

三〇八四番

海人あま娘をとめ子 潜かづき取るといふ 忘わすれ貝がひ よにも忘わすれ
じ 妹いもが姿すがたは

三〇八五番

朝影あさかげに 我あが身みはなりぬ 玉たまかぎる ほのかに見み
えて 去いにし児故こゆゑに

三〇八六番

なかなかひとに 人ひととあらずは 桑子くはこにも ならまし
ものを 玉たまの緒をばかり